

日本気象学会平成2年度総会議事録

場 所 東京都千代田区大手町 1-3-4
 会 場 気象庁 講堂
 日 時 平成2年5月24日 13:00~14:30
 次 第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 平成元年度事業経過報告
7. 平成元年度会計決算報告
8. 平成元年度会計監査報告
9. 会員の種別の改正及びそれに関する定款及び細則の一部改正
10. 平成2年度事業計画案・予算案の審議
11. その他
12. 議長解任
13. 閉会の辞

通常会員数 3,674名

出席者数	総会当日	総会成立に必要な最少人数
出席者	162名	147 (通常会員の1/25)
委任状	762名	576 (723-147)
合計	924名	723

1. 開 会

中村庶務担当理事から開会が告げられた。

2. 議長選出

満場一致で、大会委員長が議長に選出され、多田議長から自己紹介とご協力をお願いする旨の挨拶があった。

3. 日本気象学会理事長挨拶 (要旨)

昨日から3会場で行われた研究発表・活発な討論が行われています。正確には1昨日からというべきでしょう。極域研究連絡会の世話で「地球気候における南極氷床の役割」に関するシンポジウムが開催されました。本大会では研究発表数は275 (1種7分-149, 2種15分-107, ポスター-19) となり最近数年間の発表数の10%増と、一段と盛会となりつつあることは大きな喜びであります。

昨年総会以後の経過については平成元年度

事業報告を、本年度の活動予定については後程御審議いただく平成2年度事業計画(案)を御覧いただくことにして、ここではお願いをかねて二、三の報告にとどめます。

1. 昨年、地球電磁気・地球惑星圏学会、地震学会等から「地球惑星科学関連学会合同大会」の開催について呼びかけがありました。本年4月上旬に東京工業大学で4~5学会(上記2学会の他、火山学会、測地学会、地球化学学会など)の合同大会が開かれました。今後3年程引き続いて実施する予定とのことです。私共理事会では多数の会場を要する大規模な合同大会よりも共通の関心事に関する或る特定のテーマについて研究集会を共催することの方が、少なくとも当面は実りが大きいのではないかと、という判断であり、その主旨に沿った提案をすべく準備することにしていきます。本日のシンポジウム「地球システムの風景—気候と共存するサブ・システムをめぐって—」は実質的にはその一部をなすようなものではないかと思えます。会員の皆様からの御意見をお寄せ下さい。

2. WPGM (AGC と国内の9学会) は8月21~25日金沢で開催、準備は着々と進んでいます。発表: 1000件、「気象」独自の session (熱帯気象、風と渦、大気電気、成層圏、オゾン)、他学会との joint session、気象~50件

3. IAMAP 第6回総会は1993年7月12~23日横浜で開催する予定になっています。国際陸水学協会 (IAHS) との合同集会として日本学術会議に共同主催を申請すべく、また、1991年8月 IUGG 総会までに骨格をつくるべく準備中です。

4. 本学会は名実ともにその国際性は高まりつつありますが、理事会では昨年末、それに見合うよう、また一層簡素化すべく会員制度を見直してきました。同時に刊行物価格体系の適正化も必要と判断し、それらに伴う全般的整合性を考えた定款の一部改正を提案し「天気」4月号に掲載しました。本日、御審議い

ただき御承認を給わればと存じます。

最後に、各会場とも盛会で順調に進行していますが、これもひとえに多田利義大会委員長始め東京管区気象台支部会員の皆様方の御奉仕のたまものであり、厚く御礼申し上げます。

4. 学会賞受賞者の選定経過報告と授与式

学会賞候補者推薦委員長の武田理事から選定経過及びその理由について報告があり、理事長から賞状並びに賞金が授与された。

学会賞受賞者と業績

- ・巽 保夫（気象庁予報課）
局地スペクトルモデルの開発
- ・岩坂泰信（名古屋大学空電研究所）
南極成層圏エアロゾルの観測的研究

5. 藤原賞受賞者の選定経過報告と授与式

藤原賞候補者推薦委員長の岡村理事から選定経過及びその理由について報告があり、理事長から賞状並びに賞金が授与された。

藤原賞受賞者と業績

- ・藤田哲也（シカゴ大学）
メソ気象学の開拓

6. 平成元年度事業経過報告

庶務担当中村理事から報告が行われた。

7. 平成元年度会計決算報告

会計担当能登理事から報告が行われた。

8. 平成元年度会計監査報告

浜田監事から4月20日に実施した会計監査について監査意見が述べられた。

以上3件(6.7.および8.)の議案について採決が行われ、拍手多数により承認された。

9. 会員の種別の改正及びそれに関する定款及び細則の一部改正について

庶務担当中村理事から提案の趣旨説明が行われた。

本議題について議長から質疑が求められ、会員から次の発言があった。

会員の意見と中村庶務担当理事回答

会員意見. 次の疑問があるので会員種別の改正案に反対する。

反対理由

- ア 国外に住んでいる会員が通常会員になると、総会出席が困難であり総会成立がむずかしくなる。
- イ また役員選挙の事務が煩雑になる。

要望

- ア 趣旨説明の中で「日本人は、特別会員でなく、できるだけ通常会員になってもらうことが望ましい」とあるが、これは、まだ、外国人と日本人を差別するものであるからこの表現は削除するべきではないか。
- イ 国外在住会員の会費支払の変更理由は「日本の学会だから円建てにする」が妥当である。
- ウ 国内の会員にもクレジットカードによる会費支払いの道を開いてもらいたい。

担当理事回答

意見 ア、イについて

国外に住んでいる会員は全体からみると少数であり大会成立の出席数に影響を与えない。むしろ通常会員は会員の権利、義務において平等であるべきという原則を重視した。

要望

アについて

ご指摘はもっともであるのでご指摘の箇所を削除する。

イについて

これまででは、ドル建てでないとい外国から会費の支払いがむずかしかった。現在では円建てでも払込に問題がなくなった。しかし、円建てにして会費が高くなるようでは問題があるので、単純に円建てにするとは言えない。

ウについて

今度の改正にともないクレジットカード支払い制度を導入することになるが、手数料は上乘せになるので、国内会員にはメリットがない。したがって国内会員にクレジットカードを適用することは予定していない。

改正趣旨説明及び討論の結果に基づいて、改正趣旨説明の一部を削除したものについて、議長から賛成及び反対について挙手による採決が求められた。

採決の結果、下記のとおり賛成が可決に必要な数を越え議案は可決された。

1. 出席者 (160名)

理事会案を可とする賛成挙手 137名

同 否とする反対拳手 3名
 保 留 20名

2. 委任状 (762名)

白紙委任ないし賛成 758名
 反対 4名

10. 平成2年度事業計画案・予算案の審議

中村庶務担当理事から平成2年度の事業計画案、また能登会計担当理事から平成年度の予算案について資料に基づいてそれぞれ説明が行われた。

議長から質疑が求められたが、意見提出がなく、直ちに議長から採決に異議がないか意見を求められ拍手多数により可決された。

11. その他 (会員から次の発言があった)

発言内容

高齢化社会の到来で、気象学会員にも高齢者が増加しているが、学会の研究活動の中身がよく理解できず、会員をやめるものがあるので学会として「老人対策」を考えてほしい。

例えば、「天気」の中身を分かりやすくする。

また大会「予稿集」は発表者のメモのようになっていて、読者が読んでも分からないので、改善が必要である。

「気象集誌」は和文アブストラクトを3倍ぐらいにして内容がよく理解できるようにしてほしい。

その他に環境問題についても学会として会員に色々情報を流してほしい。

理事長の回答

ご指摘はもっともである。検討する。

12. 議長解任

総会協力に感謝する旨の挨拶が述べられ議長が退任した。

13. 閉 会

以上を持って、平成2年度日本気象学会総会を終了した。

総会議長 多田 利義
 出席者代表 宮川 和
 池上比呂志

平成元年度事業報告

1. 会員数の動向

平成2年3月1日現在会員数4,378(46名増)

国内 個人	一般	A	2,507(+41)	B	968 (-5)	A+B	3,475(+36)
	学生	A	94 (+3)	B	71(-13)	A+B	165(-10)
	総数	A	2,601(+44)	B	1,039(-18)	A+B	3,640(+26)
国内団体	A	330(+10)	B	180(+10)	A+B	510(+20)	
賛助会員							46 (+1)
外国	個人	A	55 (-3)	B	32 (-1)	A+B	87 (-4)
	団体	A	85 (+4)	B	5 (0)	A+B	90 (+4)
名誉会員							5
総計							4,378 (46)

2. 機関誌等の刊行

(1) 天気

36巻4号～37巻3号 12冊790頁(昨年度より58頁増)

紙面を充実した。各号約4,300部印刷。

(2) 気象集誌

67巻2号～68巻1号 6冊1,030頁(昨年度は1,011頁)

各号1,900部印刷。68巻1号より印字密度を上げた。

(3) 気象研究ノート

166号 「応用気象問題における地形因子解析の応用」 129頁

167号 「水循環と水収支」 175頁

168号 「熱帯の対流活動と日本の天候」 122頁

各号1,800部印刷。

(4) 予稿集

春季大会1,050部、秋季大会1,000部印刷。

3. 会議

(1) 総会

平成1年5月25日 気象庁

出席者：154名 委任状：738名 計：892名

(ア) 山本・正野論文賞の設立と、各賞の選考規定の見直しが承認された。

(イ) 昭和63年度事業報告・決算、平成1年度事業計画・予算案が承認された。

(2) 理事会

第25期 第3回 平成1年5月24日 気象庁

(3) 常任理事会

第25期 第7回～第16回 計10回

(4) 評議員会

第25期 第2回 平成2年1月20日 学士会館

4. 講演会および研究会

(1) 春季大会

平成1年5月24日～26日 東京：気象庁（担当：気象庁観測部）

シンポジウム「オゾン層の科学－現状と課題」

口頭発表の発表方法を2種類に分けた。

(2) 秋季大会

平成1年11月7日～9日 那覇：パシフィックホテル沖縄（担当：沖縄支部）

シンポジウム「台風－その最盛期における特徴、予測及び防災について」

韓国気象学会金正禹会長を招待。

沖縄開催は初めて。

(3) 研究会

ア. 第3回 「梅雨研究会」 平成1年 5月27日

イ. 第1回 「オゾン研究会」 平成1年 5月26日

ウ. 第2回 「オゾン研究会」 平成1年11月 7日

(4) 月例会等

ア. 第33回山の気象シンポジウム 平成1年 6月17日

イ. 長期予報と大気大循環 平成1年 9月29日

ウ. レーダー気象 平成1年11月28日

(5) 他学会等との共催等（国際学術交流事業を除く）

ア. 第26回理工学における同位元素研究発表会 平成1年 7月 3日～ 5日

イ. 第7回エアロゾル科学・技術研究討論会 平成1年 8月22日～24日

ウ. 気候講演会「21世紀の気候はどのような」 平成1年 8月30日

エ. 第4回国際会議「都市気候・計画・建築」（京都） 平成1年11月 6日～11日

オ. 第36回風に関するシンポジウム 平成1年12月 1日

カ. 第11回風工学シンポジウム

平成1年12月 6日～ 7日

5. 研究業績の表彰および研究の奨励

(1) 研究業績の表彰

- | | |
|------------|---------|
| ア. 日本気象学会賞 | 中 澤 高 清 |
| | 田 中 浩 |
| イ. 藤 原 賞 | 加 藤 進 |
| ウ. 山 本 賞 | 中 澤 哲 夫 |
| エ. 堀内基金奨励賞 | 内 藤 勲 夫 |
| | 花 輪 公 雄 |

(2) 奨励金受領者

松 本 崇 司
 松田 耕治・塩沢 定道・有賀 孝幸
 西 銘 宣 正

6. 支 部 活 動

(1) 北海道支部

- | | |
|--------------------|------------|
| ア. 第1回研究発表会 (北大) | 平成1年 6月19日 |
| イ. 第2回研究発表会 (札幌管内) | 平成1年11月22日 |
| ウ. 地方講演会 (網走) | 平成1年11月28日 |

(2) 東北支部

- | | |
|------------|------------|
| 気象講演会 (仙台) | 平成1年11月17日 |
| (青森) | 平成1年 1月18日 |

(3) 中部支部

- | | |
|---------------|----------------|
| ア. 支部総会 (名古屋) | 平成1年 9月21日 |
| イ. 気象研究会 (金沢) | 平成1年11月27日～28日 |

(4) 関西支部

- | | |
|-------------|------------|
| ア. 年 会 (大阪) | 平成1年 6月 6日 |
| イ. 例 会 (京都) | 平成1年11月16日 |
| ウ. 例 会 (広島) | 平成1年11月21日 |
| エ. 例 会 (高松) | 平成1年11月24日 |
| オ. 例 会 (神戸) | 平成2年 2月 2日 |

(5) 九州支部

- | | |
|------------|------------|
| 例会講演会 (福岡) | 平成2年 1月26日 |
|------------|------------|

- (6) 沖縄支部
 気象研究会 (那覇) 平成2年 2月22日～23日
7. 普及活動
- (1) 第23回夏季大学
 「南極の自然と気象」 気象庁 平成1年 7月25日～28日
- (2) 関西支部第11回夏季大学
 「高層気象と天気予報」 なにわ会館 平成1年 7月25日～27日
- (3) 北海道支部第7回夏季大学
 「新しい気象」 札幌青少年科学館 平成1年 7月27日～28日
8. 極域研究連絡会の発足
 昭和63年度に設置された研究連絡会制度のもとに、標記連絡会が発足した。
9. 国際学術交流
- (1) 国際学術研究集会参加の補助
- (ア) 第5回IAMAP(英国・レディング)
 秋吉 英治、児玉 安正、西 憲敬
- (イ) その他
- 岩崎 友彦 「雪氷と気候に関するシンポジウム」 (アメリカ・シアトル)
 新野 宏 「第4回アジア流体力学会議」 (香港)
 白沢 邦男 「海洋流体力学の研究」 (ベルギー)
- (2) 韓国気象学会金正禹会長を秋季大会に招聘
10. ICSU/WMO JSC for WCRP
 1990年3月5～10日に東京で開催された標記会議を後援した。
11. Western Pacific Geophysics Meeting
 1990年8月に金沢で開催の上記会議を共催することにし、運営・プログラム作成等の準備に協力した。
12. 1993年のIAMAPの日本開催
 英国レディングにおける第5回総会で、1993年のIAMAP第6回総会の開催に立候補し承認された。日本学術会議と共催でIAHSと合同の会議となる予定。準備金積み立てその他の準備を開始した。
13. 山本・正野論文賞の設立
 故正野重方会員の御遺族からの寄付の申し出を受けて、山本賞を発展させて若い新進の研究者を

奨励する賞を設けた。

14. 各賞の規定の見直し

山本・正野論文賞の設立にともない、既存の賞の規定についてその間の整合性をとるため見直しを行った。

15. 故堀内剛二会員からの追贈

故堀内会員から500万円の寄付を新たに頂いた。国際学術交流基金の充実にあてた。

16. パソコン通信

パソコン通信による気象集誌の原稿の受取りと、学会の電子掲示板の試験運用を開始した。

収 支

1. 収入の部

勘 定 科 目		予 算 額 円	決 算 額 円
大 科 目	小 科 目		
1. 基本財産運用収入		1,914,000	2,180,305
	基本財産利息収入	1,274,000	1,225,119
	基本財産配当金収入	640,000	955,186
2. 会費入会金収入		35,480,072	34,264,716
	個人会員会費入会金収入	27,943,072	24,194,526
	団体会員会費収入	4,374,000	5,554,490
	外国人会費収入	144,000	766,281
	外国団体会員会費収入	169,000	861,067
	賛助会員会費収入	2,850,000	2,888,352
3. 事業収入		21,011,000	14,953,102
	大会開催事業収入	587,000	824,460
	研究ノート刊行収入	13,019,000	7,556,093
	予稿集刊行収入	3,680,000	3,683,900
	その他の収入	3,725,000	2,888,649
4. 補助金収入		3,600,000	3,890,000
	科学研究費収入	3,600,000	3,890,000
5. 寄付金収入		50,000	8,244,875
	寄付金収入	0	8,008,000
	募 金 収 入	50,000	236,875
6. 雑収入		11,801,000	12,769,519
	雑 収 入	11,801,000	12,769,519
7. 特定預金取崩収入		0	
	総会費預金取崩収入	0	
	退職預金取崩収入	0	
8. その他収入		0	
当 期 収 入 合 計		73,856,072	76,302,517
前 期 繰 越 収 支 差 額		574,000	5,172,954
合 計			81,475,471

計 算 書

自 平成元年4月 1日
至 平成2年3月31日

社団法人 日本気象学会

内 訳		差 異 円	備 考
公 益 部 門 円	収 益 部 門 円		
1,225,119	955,186	266,305	
1,225,119		△ 48,881	
	955,186	315,186	
34,264,716		△ 1,215,356	
24,194,526		△ 3,748,546	
5,554,490		1,180,490	
766,281		622,281	
861,067		692,067	
2,888,352		38,352	
5,345,831	9,607,271	△ 6,057,898	
824,460		237,460	
	7,556,093	△ 5,462,907	
3,683,900		3,900	
837,471	2,051,178	△ 836,351	書店扱、ペーパーズ
3,890,000		290,000	
3,890,000		290,000	
8,244,875		8,194,875	
8,008,000		8,008,000	
236,875		186,875	
7,593,187	5,176,332	968,519	
7,593,187	5,176,332	968,519	別刷代、広告料他
60,563,728	15,738,789		
2,123,034	3,049,920		
62,686,762	18,788,709		

収 支

2. 支出の部

勘 定 科 目		予 算 額 円	決 算 額 円
大 科 目	小 科 目		
1. 事 業 費			
	図 書 購 入 費	300,000	200,450
	臨 時 雇 傭 金	2,016,000	767,880
	旅 費 交 通 費	609,000	282,000
	大 会 開 催 事 業 費	2,421,000	2,437,646
	通 信 運 搬 費	5,373,000	4,984,706
	編 集 費	5,638,000	4,924,601
	印 刷 製 本 費	36,370,000	28,595,120
	負 担 金	101,000	84,103
	雑 費	300,000	403,193
	藤 原 賞	100,000	100,000
	山 本 賞	100,000	100,000
	奨 励 賞	210,000	210,000
	堀 内 基 金 奨 励 賞	200,000	200,000
	学 会 賞	200,000	200,000
2. 管 理 費			
	給 料 手 当	6,340,000	6,134,022
	退 職 金	0	0
	福 利 厚 生 費	464,000	466,481
	会 議 費	750,000	532,402
	旅 費 交 通 費	330,000	69,740
	通 信 運 搬 費	1,600,000	1,027,538
	什 器 備 品 費	600,000	1,286,605
	消 耗 品	850,000	1,212,532
	印 刷 製 本 費	1,215,000	670,692
	光 熱 水 料	242,000	126,207
	賃 借 料	600,000	445,951
	租 税 公 課	1,000,000	2,031,200
	雑 費	1,681,000	210,729
	支 部 交 付 金	2,605,000	2,491,950
	諸 謝 金	400,000	150,000
	電 子 計 算 機 運 営 費	1,580,000	301,200
3. 国 際 事 業 費	国 際 学 術 交 流 費	800,000	700,000
4. 基 本 金 繰 入 支 出	基 本 金 基 金 繰 入	273,000	8,859,997
5. 特 定 預 金 支 出	I A M A P 大 会 引 当 金	0	6,000,000
	総 会 費 用 引 当 金	600,000	622,491
	退 職 金 "	500,000	511,995
	堀 内 奨 励 賞 引 当 金	0	22,188
	予 備 費	3,000,000	0
	公 益 事 業 繰 出 額		
	当 期 支 出 合 計	79,368,000	77,363,619
	当 期 収 支 差 額		△ 1,061,102
	次 期 繰 越 収 支 差 額		4,111,852
	合 計		81,475,471

計 算 書

自 平成元年4月 1日
至 平成2年3月31日

社団法人 日本気象学会

内 訳		差 異 円	備 考
公 益 部 門 円	収 益 部 門 円		
4,750	195,700	△ 99,550	費用の公益・収益に分けられないものは75対25の比率の割合とした。
575,910	191,970	△ 1,248,120	
211,500	70,500	△ 327,000	
1,828,235	609,411	16,646	
3,738,530	1,246,176	△ 388,294	
3,693,451	1,231,150	△ 713,399	
22,448,340	6,146,780	△ 7,774,880	
63,078	21,025	△ 16,897	
302,395	100,798	103,193	
100,000	0	0	
100,000	0	0	
210,000	0	0	
200,000	0	0	
200,000	0		
4,600,517	1,533,505	△ 205,978	
0	0	0	
349,861	116,620	2,481	
399,302	133,100	△ 217,598	
52,305	17,435	△ 260,260	
770,654	256,884	△ 572,462	
964,954	321,651	686,605	
909,399	303,133	362,532	
503,019	167,673	△ 544,308	
94,656	31,551	△ 115,793	
334,464	111,487	△ 154,049	
0	2,031,200	1,031,200	
158,075	52,654	△ 1,470,271	
1,868,963	622,987	△ 113,050	
0	150,000	△ 250,000	
225,900	75,300	△ 1,278,800	
700,000	0	△ 100,000	
8,859,997	0	8,586,997	
6,000,000	0	6,000,000	
622,491	0	22,491	
511,995	0	11,995	
22,188	0	22,188	
0	0	3,000,000	
61,624,929	15,738,690	△ 2,004,381	
△ 1,061,201	99		
1,061,833	3,050,019		
62,686,762	18,788,709		

損 益 計 算 書

自 平成元年4月 1日
至 平成2年3月31日

損 失		の 部		の 部		単 位 : 円
事 業 支 出	事 業 支 出	事 業 收 入	利 入	益	部	部
印刷通信会	製運集・雑	6,146,780	事業収入	気象研究ノート収入	7,556,093	
通大編そ	件交通	1,246,176	その他の収入	書店扱収入	1,897,130	
	・借運備議	609,411		パ	154,048	
運営基本支出	費用器	1,231,150		取利息収入	955,186	
	租熟利刷子計	100,798		告刷の他雑収入	2,309,000	
	人旅賃通什会公光消福印電諸支退図臨旅負雑公	1,533,505		受広別そ期	2,568,150	
		17,435			299,182	
		11,1487			1,401,441	
		256,884				
		321,651				
		133,100				
		2,031,200				
		31,551				
		303,133				
		116,620				
		167,673				
		75,300				
		150,000				
		622,987				
		0				
		195,700				
		191,970				
		70,500				
		21,025				
		52,654				
費用合計	期首	1,354,061				
	期	17,092,751				
	期	47,479				
	期	440,3981				
	期	4,451,460				
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					
	期					
費用合計	期首					
	期					
	期					

貸借対照表

自 平成元年4月 1日
至 平成2年3月31日

社団法人 日本気象学会

科 目	合 計 金 額		内 訳	
	円	円	公 益 部 門	収 益 部 門
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現 金	58,984		39,995	18,989
普 通 預 金	1,622,086		1,000,000	622,086
郵便振替預金	357,196		300,247	56,949
公社債信託	27,038,134		24,967,134	2,071,000
未 収 金	280,995		0	280,995
(計)		(29,357,395)		
棚 卸 資 産	2,686,531		1,285,090	1,401,441
流動資産合計		32,043,926	27,592,466	4,451,460
2. 固定資産				
(1) 基本資産				
貸付信託(基本金他)	21,647,972		21,647,972	
公社債信託(国際交)	25,301,824		25,301,824	
公社債信託(堀内賞)	5,650,000		5,650,000	
基本財産合計		52,599,796	52,599,796	
(2) その他固定資産				
金銭信託(退職)	811,995		811,995	
公社債信託(総会)	1,144,529		1,144,529	
公社債信託(堀内奨)	539,190		539,190	
公社債信託(IAMAP)	6,000,000		6,000,000	

科 目	合 計 金 額		内 訳	
	円	円	公 益 部 門 円	収 益 部 門 円
什 器 備 品	2,199,848		2,199,848	
その他固定資産合計		10,695,562		10,695,562
資 産 合 計		95,339,284		4,451,460
Ⅱ. 負債の部				
1. 流動負債				
前受会費	25,245,543			
流動負債合計		25,245,543		
2. 固定負債				
退職給与引当金	811,995		811,995	
総会費用引当金	1,144,529		1,144,529	
掘内奨励賞引当金	539,190		539,190	
IAMAP大会引当金	6,000,000		6,000,000	
固定負債合計		8,495,714		8,495,714
負債合計		33,741,257		33,741,257
Ⅲ. 正味財産の部				
正味財産		61,598,027		44,514,60
(うち基本金)		52,599,796		
(うち当期正味財産増加額)		8,064,929		47,479
負債及び正味財産合計		95,339,284		44,514,60
前期繰越剰余金				4,403,981
当期剰余金				47,479
未処分剰余金				4,451,460

(注) 前期繰越正味財産額は、53,533,098である。

正味財産増減報告書

自 平成元年4月 1日
至 平成2年3月31日

単位：円

	Ⅱ. 減 少 の 部			Ⅰ. 増 加 の 部		
	金 額 円	公益部門 円	収益部門 円	金 額 円	公益部門 円	収益部門 円
資産減少額						
什器備品減価償却額	615,901	615,901	0	資産増加額		
期首棚卸減少額	2,566,351	1,212,290	1,354,061	当期収支差額	<1,061,102	<1,061,201
				期末棚卸増加額	2,686,531	1,285,090
				基本財産増加額	8,859,997	8,859,997
				什器備品	761,755	761,755
				掘内奨励賞引当金	22,188	22,188
				退職給与引当金	511,995	511,995
				総会費用引当金	622,491	622,491
資産減少額				総会費用引当金	6,000,000	6,000,000
掘内奨励賞引当金	22,188	22,188	0	IAMAP大会引当金	0	0
退職給与引当金	511,995	511,995	0	負債の減少額		
総会費用引当金	622,491	622,491	0			
IAMAP大会引当金	6,000,000	6,000,000	0			
減少額合計	10,338,926	8,984,865	1,354,061	増加額合計	18,403,855	17,002,315
当期正味財産増加額	8,064,929	8,017,450	47,479			
前期繰越正味財産	53,533,098	49,129,117	44,039,811			
期末正味財産合計	61,598,027	57,146,567	44,514,601			

平成元年度財産目録

社団法人 日本気象学会

資産総額

1. 基本財産（基本金・基金） 95,058,289円

動 産 52,599,796円

種 類	預 入 先	金 額 円	備 考
貸付信託	住友信託銀行（日比谷支店）	11,750,000	基本金
〃	〃	6,500,000	山本・正野論文賞
〃	〃	1,600,000	藤原賞
〃	三井信託銀行	1,797,972	〃
公社債信託	野村証券KK（銀座支店）	25,301,824	国際交流基金
〃	山一証券KK（本店）	5,650,000	堀内基金奨励賞
合 計		52,599,796	

2. 積立金

種 類	預 入 先	金 額 円	備 考
金銭信託	住友信託銀行（日比谷支店）	81,1995	退職積立金
公社債信託	野村証券KK（銀座支店）	1,144,529	総会費用引当金
〃	日興証券KK（新丸ビル支店）	539,190	堀内奨励賞引当金
〃	住友信託銀行（日比谷支店）	6,000,000	IAMAP大会引当金
合 計		8,495,714	

3. 運用財産

種 類	預 入 先	金 額 円	備 考
現金	手元保管	58,984	
普通預金	第一勧業銀行大手町支店	1,538,138	
〃	東京銀行	83,948	
〃	中央郵便局	357,196	
〃	大手町一郵便局	0	
公社債信託	野村証券KK（東京支店）	13,511,396	
〃	日興証券KK（新丸ビル）	13,526,738	
合 計		29,076,400	

4. 什器備品 2,199,848円

5. 期末在庫高 2,686,531円

平成元年度計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

1) 有価証券の評価基準及び評価方法について

有 価 証 券……取得価格による原価基準を採用している。

2) 固定資産の減価償却について

什 器 備 品……定率法による減価償却を実施している。

3) 引当金の計上基準について

退職給与引当金……期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

総会費用引当金……隔年度の総会費用経費に相当する金額を計上している。

I AMAP大会引当金……1993年に日本で開催されるI AMAP 大会に必要な額を計上する。

4) 資金の範囲について

資金の範囲には現金預金、未収金及び前受金を含めることとしている。なお当期末残高は3に記載するとおりである。

2. 基本財産の増減及びその残高は次のとおりである。

項 目	当期増加額 円	当期減少額 円	当期末残高 円
基 本 金	0		1,750,000
藤 原 賞	84,928		3,397,972
山本・正野論文賞	3,000,000		6,500,000
国際学術交流基金	5,575,069		25,301,824
堀内基金奨励賞	193,000		5,650,000
合 計	8,852,997		52,599,796

3. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

項 目	当期末残高 円	公益部門 円	収益部門 円
現 金	58,984	39,995	18,989
普 通 預 金	1,622,086	1,000,000	622,086
郵便振替貯金	357,196	300,247	56,949
公 社 債 信 託	2,703,813	2,496,713	2,071,000
合 計	2,907,640	2,630,737	2,769,024
前 受 会 費	25,245,543	25,245,543	0
合 計	25,245,543	25,245,543	0
当期繰越収支差額	3,830,857	1,061,833	2,769,024

4. 固定資産の取得価格は原価償却累計額及び当期残高は次のとおりである。

項 目	取得価格 円	減価償却額 円	当期末残高 円
什 器 備 品	3,830,674	1,630,826	2,199,848
合 計	3,830,674	1,630,826	2,199,848

社団法人日本気象学会監査報告書

社団法人日本気象学会の財産及び業務執行の状況を次のとおり報告する。

1. 監査月日 平成2年4月20日
2. 監査場所 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
社団法人 日本気象学会事務局
3. 監査帳簿
 - (1) 平成元年度収支計算書他
 - (2) 財産目録
 - (3) 総勘定元帳
 - (4) 現金出納帳
 - (5) 預金出納帳
 - (6) 備品台帳
 - (7) 物品出納帳
 - (8) 領収書類
 - (9) 預金証書及び普通預金通帳
 - (10) 郵便局振替払出納帳
 - (11) 国庫金送金通知書綴
 - (12) 現金書留受領簿
 - (13) 小切手帳及び小切手受払簿
 - (14) 平成元年度事業報告書
4. 監査内容
 - (1) 平成元年度収支計算書及びその他の計算書について、その経理状況を監査するとともに、財政状況を調べた。
 - (2) 上記の帳簿類について、照合を行うとともに、出納状況及び記載事項の監査を実施した。
 - (3) 学会の運営状況について聴取し、意見を述べた。

5. 監 査 意 見

監査の結果、平成元年度（平成元年4月1日から平成2年3月31日まで）の収支計算書は正しいと認める。会計帳簿は照合の結果、正確であり、良く整理されていた。会費の納入状況は良好であり、財政は安定している。

事業はほぼ計画どおり遂行されている。A4版の気象集誌の発行は順調で、印字ドットの高密度化と良質用紙の使用により一層鮮明な紙面を実現していることは昨年度以来の努力の継続として評価される。気象研究ノートは年間発行回数・同ページ数の不規則性及び販売部数予測の不確実性など不定期刊行に伴う種々の困難はあるが、学会の重要な事業の一つであり、また予算執行上にも影響の少ない点を配慮してその健全な発展を図ることが必要である。国際交流事業は、その基金がほぼ目標に達していたが、今年度には故堀内剛二会員の多額の寄付により基金は一層充実した。今後は事業の強化充実により学会の国際化を推進する必要がある。

学会の経理事務は、学会活動の拡大と共に著しく増加しており、会計専任の非常勤職員の支援によって対処することとなったが、今後その事務処理の機械化省力化を一層推進する必要がある。

この1年間の学会の運営に対する役員や事務局員の尽力を高く評価する。

平成2年4月20日

監 事 関 口 理 郎 ㊟

監 事 浜 田 忠 昭 ㊟

平成2年度事業計画(案)

1. 機関誌等の刊行

- (1) 天 気 37巻4号～38巻3号 紙質を改良する。
- (2) 気象集誌 68巻2号～69巻1号 紙質を改良する。
- (3) 気象研究ノート 169号～172号
- (4) 予稿集 発行部数を増やす。

2. 講演会および研究会

- (1) 春季大会 平成2年 5月23日～25日 気象庁 (東京管区気象台)
- (2) 秋季大会 平成2年10月24日～26日 京都府総合見本市会館
「パルスプラザ」(関西支部)
- (3) 研究連絡会 シンポジウム「地球気候における南極の役割」
平成2年5月22日 気象庁
極域研究連絡会主催。日本雪氷学会等と共催。
- (4) 研究会 例年通り
- (5) 月例会等 例年通り
- (6) 他学会との共催等 例年通り

3. 普及活動

- (1) 第24回夏季大学
「海と大気」 平成2年7月24日～28日 気象庁
- (2) 関西支部第12回夏季大学
「未定」
- (3) 北海道支部第8回夏季大学
「未定」

4. 国際学术交流

国際学術研究集会参加補助は例年通り。

5. Western Pacific Geophysics Meetingの共催

1990年8月21日～25日、金沢で開催される上記の国際会議を共催する。気象単独及び他の学会との合同セッションを主催する。

6. 1993年のIAMAP開催の準備

標記IAMAP第6回総会を横浜(予定)で開催するため、日本学術会議に申請するなどの準備

を開始する。運営事務局は気象研究所に設ける予定である。

7. 山本・正野論文賞
第1回の賞の授与を秋季大会で行う。
8. 研究連絡会
研究連絡会の活動を援助するため旅費・会議費等の予算を付ける。極域研究連絡会は他学会と共催のシンポジウムを開催する。
9. パソコン通信
パソコン通信の機能をバージョンアップし、本格運用を開始する。
10. 会員種別の改訂
外国人を特別扱わないよう、外国人会員制度を廃止し特別会員制度を設けること、入会の条件を簡素化する等の、会員制度に関する定款および細則の関連する部分の改訂を行う。また、機関紙、その他の雑誌の価格体系の適正化も図る。
11. 日本学術会議第15期会員の選出の準備
学術研究団体の登録等の選出に必要な手続きを進める。
12. 役員 の 改 選
第26期の役員 の 選挙を行う。
13. 事 務 局
会員のデータベースの事務処理を業者に委託する。
会計事務担当の人員を強化し、会計処理の機械化を推進する。

平成2年度収支予算書(案)

自 平成2年4月 1日
至 平成3年3月31日

1. 収入の部

社団法人 日本気象学会

勘定科目		予算額 (千円)	前年度予算額 (千円)	増減 (千円)	備考
大科目	小科目				
1.基本財産運用収入		1,688	1,274	414	
	基本財産利息収入	1,087	754	333	
	基本財産配当収入	601	520	81	
2.会費入会金収入		37,366	41,678	△ 4,312	
	通常会員会費収入	29,331	34,101	△ 4,770	外人及外国団体 前受会費を含む
	外国会員会費収入	203	144	59	
	外国団体会員会費収入	294	169	125	
	国内団体会員会費収入	4,608	4,374	234	
	賛助会員会費収入	2,890	2,850	40	
	入会金収入	40	40	0	
3.事業収入		22,916	21,011	1,905	
	大会開催事業収入	700	587	113	
	予稿集	4,036	3,680	356	
	気研ノート	14,756	13,019	1,737	
	夏季大学受講料	800	850	△ 50	
	書店扱	2,420	2,655	△ 235	
	ペーパーズ	134	130	4	
	集誌特別号	70	90	△ 20	
4.補助金収入		3,890	3,600	290	
	補助金収入	3,890	3,600	290	
5.寄付金収入		50	50	0	
	寄付金収入	0	0	0	
	募金収入	50	50	0	
6.雑収入		12,907	12,441	466	
	受取利息	798	640	158	
	投稿料	5,072	5,250	△ 178	
	別刷代	3,675	3,771	△ 96	
	広告料	2,801	2,380	421	
	その他雑収入	561	400	161	
7.特定預金取崩収入	特定預金	1,462	0	1,462	
	退職金取崩収入	322	0	322	
	総会費用取崩収入	1,140	0	1,140	
当期収入合計		80,279	80,054	225	
前期繰越収支差額		4,100	574	3,526	
収入合計		84,379	80,628	3,751	

2. 支出の部

勘定科目		予算額 (千円)	前年度予算額 (千円)	増減 (千円)	備考
大科目	小科目				
1.事業費		58,017	51,416	6,601	
	図書購入費	300	300	0	
	臨時雇賃金	2,682	2,016	666	
	会議費	0		0	
	旅費交通費	335	609	△ 274	
	大会開催事業費	2,200	2,421	△ 221	
	予稿集刊行費	2,198	2,052	146	
	印刷製本費	1,860	1,662	198	
	通信運搬費	338	390	△ 52	
	天気刊行費	22,263	21,511	752	
	印刷製本費	16,851	16,372	479	
	編集費	2,026	2,026	0	
	通信運搬費	3,386	3,113	273	
	気象集誌刊行費	14,438	13,133	1,305	
	印刷製本費	10,353	9,538	815	
	編集費	2,525	2,401	124	
	通信運搬費	1,560	1,194	366	
	研究ノート刊行費	12,014	10,048	1,966	
	印刷製本費	9,192	8,298	894	
	通信運搬費	1,404	1,074	330	
	編集費	1,418	676	742	
	夏季大学テキスト	717	637	80	
	印刷製本費	580	500	80	
	編集費	137	137	0	
	賞金支出	810	810	0	
	学会賞	200	200	0	
	藤原賞	100	100	0	
	山本・正野論文賞	100	100	0	
	奨励賞	210	210	0	
	堀内基金奨励賞	200	200	0	
	雑費	60	300	△ 240	
2.管理費	管理費	20,132	20,358		
	給料	6,400	6,340	60	
	退職金	322	0	322	
	福利厚生費	478	464	14	
	会議費	880	750	130	
	旅費交通費	260	330	△ 70	
	通信運搬費	1,380	1,600	△ 220	

勘定科目		予算額 (千円)	前年度予算額 (千円)	増減 (千円)	備考
大科目	小科目				
	什器備品	750	600	150	
	消耗品	444	850	△ 406	
	印刷製本費	630	1,215	△ 585	
	光熱水料	300	242	58	
	電話	150	0	150	
	負担金	144	101	43	
	賃借料	900	600	300	
	租税公課	1,000	1,000	0	
	消費税	0	0	0	
	諸謝金	200	400	△ 200	
	総会費	400	0	400	
	事務委託費	1,208	1,580	△ 372	
	支部交付金	2,605	2,605	0	
	雑費	1,681	1,681	0	消費税を含む
3.国際学術交流事業費		800	800	0	
	国際交流基金支出	800	800	0	
4.基本財産繰出		50	273	△ 223	
	交流基金支出	50	273	△ 223	
5.特定預金支出		600	1,100	△ 500	
	退職積立金支出	300	500	△ 200	
	総会費用積立金	300	600	△ 300	
6.予備費		1,000	3,000	△ 2,000	
	予備費	1,000	3,000	△ 2,000	
支出合計		80,599	79,368	1,231	
当期収支差額		△ 320	686	△ 1,006	
次期繰越収支差額		3,780	686	3,094	

会員種別の改正及びそれに関する 定款及び細則の一部改訂について

1. 現在の会員制度の問題点

1.1 外国人会員

(イ) 通常会員が有する役員選挙権、総会の表決権が個人の外国人会員にない。

(ロ) ドル建てのため、会費が割高である。また、郵送費と会費納入手数料の負担も大きい。日本気象学会を国際的な学会にするために、外国人の会員を増やすという目的に不都合な状況である。

1.2 団体A会員

団体A会員には、天気は無償配布を受ける会員と集誌の無償配布を受ける会員の2種類が混在している。

1.3 賛助会員の会費

一部の賛助会員は、天気・集誌・研究ノート・予稿集の無償配布を受けているが、最低一口3万円の会費では個別に販売した場合と大差がなく、賛助の実質がない。

1.4 通常会員の入会手続き

(イ) 入会金を必ずしも入会者全員から徴収していない。

(ロ) 定款では通常会員一名の紹介が必要となっているが、紹介者なしに入会を希望する者が多数いる。実際には紹介者なしで入会を認めている。

1.5 会費と刊行物価格の体系

会員種別が複雑である、天気・集誌・研究ノート・予稿集・Papersの5種の刊行物があり、各刊行物の間で価格の付け方が一貫していない。

2. 定款及び細則の改正案の概要

2.1 外国人会員制度の廃止

外国人を特別扱いしない。原則として外国人の個人は通常会員に、団体は団体会員になってもらう。

なお、国外の通常会員の所属支部は希望によるものとする(なければ関東支部)。

2.2 特別会員制度の創設

もともと外国人会員制度には、集誌を国際的な雑誌として国外に普及させるという趣旨がある。今回の改正でも、集誌だけの無償配布を受ける会員用として、特別会員制度を設け、現在の外国人会員で集

誌だけの配布を受ける個人と団体、及び団体会員のうち集誌だけの配布を受けている団体を吸収する。

特別会員には日本人、外国人の区別はない。なお、個人の特別会員には表決権、選挙権はない。

2.3 入会手続きの簡素化

より多くの人に気象学会の門戸を開くため、入会手続きを簡略にする。

(イ) 入会金を廃止する。

(ロ) 通常会員の紹介者は不要とする。

(ハ) 入会申込書の記入事項から職歴のあらましの項を削除する。

3. 関連する処置

3.1 国外の会員の会費に関する負担

(イ) 会費を全て円建てとし、国内会員と同一の会費にする。現在の外国人会員には会費の値下げとなる。

(ロ) 郵送費・会費納入手数料の負担

国外の個人会員(外国人、長期出張者等)、及び団体会員は、雑誌の郵送料と会費納入に要する手数料を、現行通り実費負担する。

(ハ) 会費納入手数料の負担の軽減

クレジットカード、及び国際郵便振替による会費支払いの受付を開始し、国外会員の負担を軽減する。

3.2 会費と刊行物価格体系の適正化

全刊行物の価格(会費も含む)の体系を統一し適正なものとする。全体的には値上げはないようにする。会費の値上げは、団体会員から特別会員になる会員(主に国内の大学・研究所の図書室)だけで、個人会員にはない。

3.3 賛助会員の会費増額依頼

各賛助会員に会費の口数増加の協力を依頼する。

定 款 改 正 案

第 6 条 この会員の種別および会費は、次のとおりとする。

1. 通常会員 この法人の目的に賛同し、次の区分により会費を前納する個人。

A 会員 会費として年額 5,500 円を納める個人、ただし在学中の会員は年額 3,500 円とする。

B 会員 会費として年額 10,300 円を納める個人、ただし在学中の会員は年額 6,500 円とする。

2. 特別会員 この法人の目的事業に賛同し、会費として年額 6,000 円を前納する個人、または 1 口 9,000 円を 1 口以上納める団体。

3. 団体会員 この法人の目的事業に賛同し、会費年額 A 会員として 1 口 7,200 円を 1 口以上、B 会員として 1 口 14,400 円を 1 口以上納める団体。

4. 賛助会員 この法人の事業を後援し、会費年額 30,000 円以上を納める個人または団体。

5. 名誉会員 この法人に対し特に功勞のあった者で総会の議決をもって推薦する個人。

前項第 1 号の会員の会費の納付期限は、12 月末日限りとする。通常会員をもって民法上の社員とする。

第 7 条 会員になろうとする者は、入会申込書を提出し、常任理事会の承認を受けなければならない。入会を認められた通常会員は、直ちに会費を納めなければならない。

第 8 条 以降第 12 条には改正条項はない

第 4 章以降には改正条項はない

付則 2. に次を加える。

この定款の変更は文部大臣の認可の日から施行し平成 3 年 1 月 1 日から実施する。

現行 日本気象学会定款

第 1 章 総 則

第 2 章 目的および事業

第 3 章 会 員

第 6 条 この会員の種別および会費は、次のとおりとする。

1. 通常会員 この法人の目的に賛同し、次の区分により会費を前納する者
 - A 会員 会費として年額金 5,500 円を納める者、ただし在学中の会員は年額金 3,500 円、外国に在住する会員は、年額金 7,200 円とする。
 - B 会員 会費として年額金 10,300 円を納める者、ただし在学中の会員は年額金 6,500 円、外国に在住する会員は年額金 11,000 円とする。
2. 外国人会員 外国人でこの法人の目的に賛同し、通常会員に準ずる会費を前納する者
3. 団体会員 この法人の目的事業に賛同し、会費年額 A 会員として 1 口金 7,200 円を 1 口以上、B 会員として 1 口金 14,400 円を 1 口以上納める団体
4. 賛助会員 この法人の事業を後援し、会費年額金 30,000 円以上を納める個人または団体
5. 名誉会員 この法人に対し特に功勞のあった者で総会の議決をもって推薦する者
前項第 1 号および第 2 号の会員の会費の納付期限は、12 月末日限りとする。
通常会員をもって民法上の社員とする。

第 7 条 通常会員になろうとする者は、通常会員 1 名の紹介により入会金 500 円を添えて入会申込書を提出し、常任理事会の承認を受けなければならない。入会を認められた通常会員は、ただちに会費を納めなければならない。団体会員または賛助会員になろうとするものは入会申込書を提出し、常任理事会の承認を受けなければならない。

第 8 条 会員の特典 第 8～第 12 条は改正無し

第 9 条 資格喪失の条件

第 10 条 退会の手続き

第 11 条 除名の条件

第 12 条 既納金は返還しない

第 4 章以降は省略

現行 日本気象学会細則

第 1 章 支 部

第 1 条 支部が置かれる場合は、支部はその規約を支部毎に定め、理事会の承認を受ける。

第 2 章 会 員

第 2 条 この法人に通常会員として入会を希望するものは、次のことがらを書いた入会申込書を理事長に提出しなければならない。

1. 姓名（ローマ字付） 生年月日
2. 現住所および連絡先
3. 勤務先と職名
4. 最終学歴
5. 職歴のあらまし
6. 紹介者氏名（本会の通常会員であること）

第 3 条 この法人に賛助会員として入会を希望するものは、次のことがらを書いた入会申込書を理事長に提出すること。

1. 個人の場合は前条と同じとする。
2. 団体の場合は
 - イ. 団 体 名
 - ロ. 代表者氏名
 - ハ. 所 在 地
 - ニ. 会 費

第 4 条 新たに入会した通常会員は、会費を前納しなければならない。また、在学中の会員で定款第 6 条の会費の割引を受けたい者は、毎年 4 月 30 日までに在学証明書を付して理事長に申請しなければならない。

第 5 条 会費の納付方法の細部および日本国外在住の会員についての送料通信費等の徴集については、適宜常任理事会で決める。

第 5 章 出 版 物

第 15 条 本会は機関紙として、気象集誌および天気を発行する。ただし学会運営上に必要な事項はすべて天気に公示する。気象集誌は年 6 回発行する。天気は原則として毎月発行する。

第 16 条 その他の刊行物を発行する場合は理事会または常任理事会の決議を要する。

第 17 条 通常会員・外国人会員および団体会員のうち B 会員ならびに名誉会員には、天気および気

象集誌を無償で配付し、通常会員のうちのA会員には、天気は無償で配布する。団体会員および外国人会員のうちA会員には、その希望に従い天気または気象集誌何れかを無償で配付する。

ただし、会費の納付を6カ月以上怠った者には無償配付を停止する。本機関誌は一般購読者に対しても常任理事会で定められた適当な価格で配付する。

改 正 案

第 1 章 支 部

第 1 条 支部が置かれる場合は、支部はその規約を支部毎に定め、理事会の承認を受ける。日本国外在住の会員は、希望する支部に所属する。希望が無い場合は関東支部とする。

第 2 章 会 員

第 2 条 この法人に通常会員、特別会員または賛助会員として入会を希望する個人は、次のことを書いた入会申込書を理事長に提出しなければならない。

1. 会員種別
2. 姓名（ローマ字付）、生年月日
3. 現住所および連絡先
4. 日本国外在住者の場合は希望する支部名
5. 勤務先と職名
6. 最終学歴
7. 会費（賛助会員のみ）

第 3 条 この法人に特別会員、団体会員または賛助会員として入会を希望する団体は、次のことを書いた入会申込書を理事長に提出すること。

1. 会員種別
2. 団体名
3. 代表者氏名
4. 所在地（連絡先）
5. 会 費

第 4 条 新たに入会した通常会員は、会費を前納しなければならない。また、在学中の会員で定款

第6条の会費の割引を受けたい者は、毎年4月30日までに在学証明書を付して理事長に申請しなければならない。

第5条 会費の納付方法の細部および日本国外在住の会員についての送料通信費、会費納入に関する手数料等の徴集については、適宜常任理事会で決める。

第5章 出版物

第15条 本会は機関誌として、気象集誌および天気を発行する。ただし学会運営上に必要な事項はすべて天気に公示する。気象集誌は年6回発行する。天気は原則として毎月発行する。

第16条 その他の刊行物を発行する場合は理事会または常任理事会の決議を要する。また、発行する刊行物の価格については毎年常任理事会に報告するものとする。

第17条 各会員には次のように機関誌を無償で配付する。

1. 通常会員 A会員 天気
2. 通常会員 B会員 天気と気象集誌
3. 特別会員 気象集誌
4. 団体会員 A会員 天気
5. 団体会員 B会員 天気と気象集誌
6. 賛助会員 天気と気象集誌の中から希望のもの
7. 名誉会員 天気と気象集誌

ただし、会費の納付を怠った者には無償配付を停止する。

本機関誌は一般購読者に対しても常任理事会で定められた適当な価格で配付する。